

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年7月29日

【評価実施概要】

事業所番号	0871100202		
法人名	有限会社 二葉		
事業所名	グループホーム めぐる		
所在地	茨城県常総市花島町29-4 (電話) 0297-27-5775		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成21年3月23日	評価確定日	平成21年7月29日

【情報提供票より】(平成21年2月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	5 人	常勤4人, 非常勤1人,	常勤換算4.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	13,000～16,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(平成21年2月4日現在)

利用者人数	6名	男性	4名	女性	2名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 78 歳	最低 62 歳	最高 84 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	水海道さくら病院 西部病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者は、利用者一人ひとりを尊重したケアを実践するために利用定員を6名としている。
ホームの名称である“めぐる”には、「自然も不自然も受け入れ、善いことも悪いことも個性として認めたいうで関わる。めぐりめぐる」との運営者の思いが込められている。
管理者は利用者一人ひとりと真剣に向き合い、利用者自身が選択や決定ができるよう支援し、より質の高い生活ができるようマネジメントをしている。
職員は利用者を人生の先輩として敬意をもって接し、互いに支えあう関係を築いている。

【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 昨年市内のグループホーム7事業所で連絡会が設立され、同業者との交流を通じてのサービスの質の向上を目指して管理者間で交流している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者や管理者、職員は外部評価の意義や目的を理解するとともに、自己評価を全職員で取り組んでいる。
重点項目 ②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は利用者の家族等や地域の代表、市職員で定期的に開催し、ホームの目的や行事等について説明するとともに地域との関わりや協働について意見交換をし、助言を得ている。
重点項目 ③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 管理者は家族等の来訪時に意見や苦情などを気軽に言ってもらえる機会をもうけるとともに玄関に苦情箱を設置している。 出された意見等には迅速に対応する体制になっており、その経過や結果を記録し保管している。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 散歩時に商店に立ち寄るなど日常生活の中で地域と交流し、馴染みの関係を築いている。 独居老人の見守りや訪問などを行い、必要な場合は関係機関と連絡を取り合うなどして地域福祉の一端を担っている。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として「利用者の個性を尊重した快適な生活の空間」を掲げ、地域のなかでその人らしい暮らしができるよう支援に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員はミーティングや支援の場で折に触れ理念を確認し、支援に努めている。利用開始時に理念を利用者や家族等に説明するとともに玄関に掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時に商店に立ち寄るなど日常生活の中で地域と交流し、馴染みの関係を築いている。独居老人の見守りや訪問などを行い、必要な場合は関係機関と連絡を取り合うなどして地域福祉の一端を担っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や職員は外部評価の意義や目的を理解するとともに、自己評価は全職員で取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者の家族等や地域の代表、市職員で定期的開催し、ホームの目的や行事等について説明するとともに地域との関わりや協働について意見交換をし、助言を得ている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	昨年、市の要請のもと市内の介護事業所の連絡会とグループホーム連絡会が設立され、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時に利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理を報告するとともに来訪できない家族等には郵送している。 管理者は日誌や利用者の状態及び行動などの記録を参考にして利用者の介護記録としてまとめ、報告時の資料にするとともに金銭報告は明細書や領収書を添付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は家族等の来訪時に意見や苦情などを気軽に言ってもらえるよう機会を設けるとともに、玄関に苦情箱を設置している。 出た意見等には迅速に対応する体制になっており、その経過や結果を記録し保管している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員にストレスが溜まらないよう話をよく聴き、働きやすい職場環境づくりに努めているため職員の離職は生じていない。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は研修の必要性を理解し、職員の外部研修参加を支援するとともに内部の勉強会を実施している。 受講後は報告会で内容を報告し、全職員で共有するとともに研修報告書を作成している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内7事業所のグループホームで連絡会を結成し、管理者間で交流している。	○	各事業所の管理者のみの集りになっているので見学や相互研修などを通して職員同士も交流し、サービスの質の向上に活かすことを期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者は利用開始時に時間を十分とって利用者の話を聴いたり声かけをするなどで、利用者の不安を取り除く支援を心がけている。 利用間もない場合は、家族等と連携を図り数日間自宅へ戻るなどで徐々に馴染めるよう支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者は利用者の“出来ない情けなさ”を理解し利用者の気持ちに寄り添う支援をすることに努めている。 職員は利用者から昔の習慣や生活の知恵、料理、裁縫などを学び利用者が遠慮しない関係づくりを築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者や職員は利用者の話を良く聴き、利用者本位の支援に努めている。 利用開始時に生活歴の聞き取りやアセスメントを行い、その後3ヶ月から1年かけてモニタリングをしながら、利用者の思いや考え方を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族等の希望を聞くとともにケアカンファレンスで話し合って介護計画を作成している。 作成した介護計画は家族等に説明をしているが、確認印を得るまでには至っていない。	○	作成した介護計画は家族等に説明後確認印を得ることが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	管理者は支援過程の中で利用者の小さな変化を察知し介護計画を見直している。 計画→実践→評価を繰り返し、利用者の有する能力を最大限に発揮できるよう支援している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	床屋や美容院、日帰り温泉など利用者のその日その時に行きたい場所への外出支援をしている。 管理者は利用者の入院時は頻繁に面会に行くほか、退院後は不安を取り除くために暫くの間職員が利用者の居室で一緒に寝るなどの支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科や精神科、耳鼻科など利用者のかかりつけ医の通院を支援するとともに、受診結果が緊急性が高い場合は迅速に家族等に報告している。 訪問歯科治療を受け入れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りまで行わないことを契約時に家族等に説明しているが、利用者や家族等の希望に応じてできる限りの支援を行う方針である。 利用者や家族等の意志の確認や方針を明文化するまでには至っていない。	○	利用者や家族等、医療機関、職員など関係者で十分な話し合いを行ない、「重度化・終末期対応指針」や「利用者・家族等の意志確認書」などの書類を整備することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホームの理念に「個性の尊重」を謳っており、管理者や職員は利用者一人ひとりの尊厳を大切にしている。 職員は利用者を“さんづけ”で呼び、親しき仲にも節度を保ちながら支援している。 個人ファイルは事務室内のロッカーに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活は利用者のペースに合わせることを基本としており、管理者や職員は一人ひとりがその日その時をどう過ごしたいかを聴き、利用者の希望にそって支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が調理や配膳、下膳、食器洗い、食器拭きなどを一緒に行うとともに、同じ食卓を囲み談笑しながら食事を楽しんでいる。 週に1度の外食や記念日に出前をとったり、居酒屋や焼き鳥屋などに行くことも利用者の楽しみとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に毎日の入浴を支援しており、公平さを保つために入浴順を変えている。 職員は自由に入浴を楽しめるよう利用者のペースに合わせた支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は掃除や草刈り、洗濯物干し、荷物の運搬、ゴミ捨てなど率先して役割を担っている。 年に2回の旅行やスパリゾートでの芝居見物、カラオケなどを行い利用者の気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	管理者は、利用者の体力維持のために天気の良い日は散歩を励行している。 スーパーや洋服店、ホームセンターなどの買い物に誘うなど利用者が戸外に出る機会をつくって支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者や職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中玄関は施錠していない。 リビングからはウッドデッキが続き気軽に外気に触れられる環境になっている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回独自で避難訓練を実施し、記録を残している。 夜間の訓練も行っているが、消防署や地域の人々の協力を得るまでには至っていない。 備蓄として米や乾パン、水、乾麺、簡易ガスコンロ、釜などを用意している。	○	避難訓練や消火訓練は、消防署や地域の人々の協力を得ながら実施することを期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるカロリー計算された献立となっており、食材は業者に発注している。 持病のある利用者には、身体状態を観察するとともに主治医と連携を図り、適切な摂取量になるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前に草花を植えたプランターを置き季節が感じられるよう配慮している。 リビングにソファを設置し、利用者の憩いや語らいの場となっている。 ウッドデッキが建物を周る形で設置されているため、散歩の困難な利用者の歩行訓練の場になっている。 ホームで飼っている猫が利用者の心を癒している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビや冷蔵庫、箆笥、本棚など馴染みの物品が持ち込まれるとともに家族等の写真や手作りの品が飾られ、居心地の良い場所になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。